

## 2 ミニグラジオラス品種の現地適応性の実証

### ○ 結果の要約

ミニグラジオラス品種の12月出し栽培の作型において、「キャンディパー」、「ミッシェル」、「ケリー」、「アンバー」、「インディアンサマー」を選定した。

#### 1 課題の背景とねらい

沖永良部地域の主要品目であるグラジオラスは、業務用向けに草丈が100cmを超える品種を生産している。

今後、用途拡大を目的としてホームユース等の小売向け用のミニグラジオラス（草丈が短い70～80cm）の有望な品種を選定する。

### 2 実証内容

(1) 設置場所 知名町知名露地ほ場

(2) 耕種概要

ア 対象作物 グラジオラス

イ 作型 12月出し

ウ 定植 令和4年9月24日

エ 栽植様式 畝幅80cm, 株間20cm, 条間20cm, 3条植え (11,000球/10a植え)

オ 施肥 基肥 N : P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> : K<sub>2</sub>O = 12 : 12 : 12 (kg/10a)

(3) 試験区の構成

ア 品種

キャンディパー, ベネチア, ミッシェル, ケリー, パティ, アンバー, インディアンサマー, キオ, フレボフュージョン

※球根サイズ: 球周8～10mm, 11品種

(4) 区制

1区20株 1連制

### 3 調査結果

表1 12月出しの生育開花特性

品種	草丈	花穂長	小花数	収穫期 10%	収穫期10%ま での日数	ブラインド	採花率
	cm	cm	輪	月/日	日	株	%
キャンディパー	74	39	18	12/1	68	0	100
ベネチア	69	33	13	12/2	69	1	95
ミッシェル	94	43	14	12/1	68	1	95
ケリー	72	35	12	12/1	68	0	100
パティ	63	33	13	12/1	68	2	90
アンバー	76	33	10	11/30	67	0	100
インディアンサマー	89	33	12	12/4	71	1	95
キオ	84	39	11	12/2	69	6	70
フレボフュージョン	92	33	10	12/14	81	7	65

注) 収穫期10% : 収穫本数が全収穫本数の10%に到達した日

収穫期10%までの日数 : 定植日 (9/24) から収穫期10%までの日数

表1 つづき

品種	評価					
	草丈伸長性	生産性	ボリューム	花容草姿	花持ち	総合
キャンディパー	○	○	○	○	○	○
ベネチア	△	○	○	○	○	△
ミッシェル	○	○	○	○	○	○
ケリー	○	○	○	○	○	○
パティ	△	○	○	○	○	△
アンバー	○	○	○	○	○	○
インディアンサマー	○	○	○	○	○	○
キオ	○	△	○	○	○	△
フレボフュージョン	○	△	○	○	○	△

注) 評価は○：良い，△：劣る

草丈伸長性は草丈70cm以上は○，70cm未満は△

生産性は，採花率を基準にした

ボリュームは，茎の太さや切花重を基準にした



キャンディパー



ミッシェル



ケリー



アンバー



インディアンサマー

写真1 選定された開花時の品種



注) 12月4日撮影  
写真2 12月出しの生育状況

参考1 グラジオラスの12月出しの生育開花特性（令和3年度）

品種	草丈	花穂長	収穫期10%	収穫期10%ま での日数	定植 球数	開花	ブラインド	病害による 枯死	採花率
	cm	cm	月/日	日	球	株	株	株	%
ソフィー（対照）	112	58	12/12	73	14	13	0	1	93
エッセンシャル	105	48	12/10	71	25	23	1	1	92
スノードン	106	41	12/13	74	41	24	15	2	59
チベット	105	47	12/6	67	26	25	0	1	96
ノバゼンブラ	122	59	12/20	81	27	25	0	2	93
ピラブランカ	125	51	12/24	85	25	18	2	5	72

注) 収穫期10%：収穫本数が全収穫本数の10%に到達した日  
 収穫期10%までの日数：定植日（9/30）から収穫期10%までの日数  
 定植 令和3年9月30日

(1) はじめに

- ア 台風等による大きな気象災害の被害がなく、生育が順調であった。
- イ 草丈伸長性は草丈70cm、生産性は採花率を指標にして評価した。

(2) 生育開花特性

- ア 草丈は、63~94cmで令和3年度に実証した参考1のグラジオラス品種（主に業務用として使用されている）と比較して短かった。
- イ 花穂長は、33~43cmで参考1のグラジオラス品種と比較して短かった。
- ウ 小花数は、10~18輪であった。
- エ 定植から収穫期10%までの日数は、68~81日で参考1のグラジオラス品種と比較して大きな差は認められなかった。
- オ 採花率は、65~100%と品種間差があり、採花率の低い主な要因はブラインドの多発が考えられた。

カ 草丈伸長性, 生産性, ボリューム, 花容草姿, 花持ちを考慮した総合評価で有望な品種は, 「キャンディパー」, 「ミッシェル」, 「ケリー」, 「アンバー」, 「インディアンサマー」であった。

#### 4 考察

- (1) ミニグラジオラスの栽培期間は, 通常のグラジオラスと比較して大きな差がない結果になったが, 草丈が短く, 葉のサイズもコンパクトなため, 密植による単収向上の可能性があると考えられた。
- (2) ミニグラジオラスの12月出しの生育開花特性を把握することができたが, 生産者へ推進を図るために市場や実需者のニーズにあった品種や規格について詳細に調査する必要がある。

#### 5 残された課題

- (1) ミニグラジオラス品種の実需者のニーズにあった切花長や花容・草姿の評価
- (2) ミニグラジオラス品種の3月出しにおける生育開花特性把握

#### 6 執筆者 渡辺 剛史